

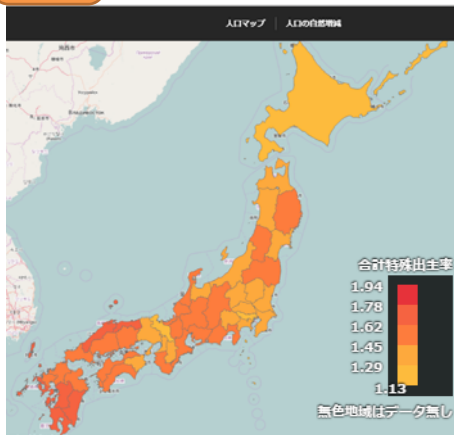
北海道内市区町村の特性に着目した 少子化の影響要因分析

4年W1組 4712129 柳田紗耶未

少子化最先端地域 北海道

RESAS

: 経済産業省が開発した地域経済分析システム



日本の合計特殊出生率レーダー図

【出典: 厚生労働省「人口動態調査」】

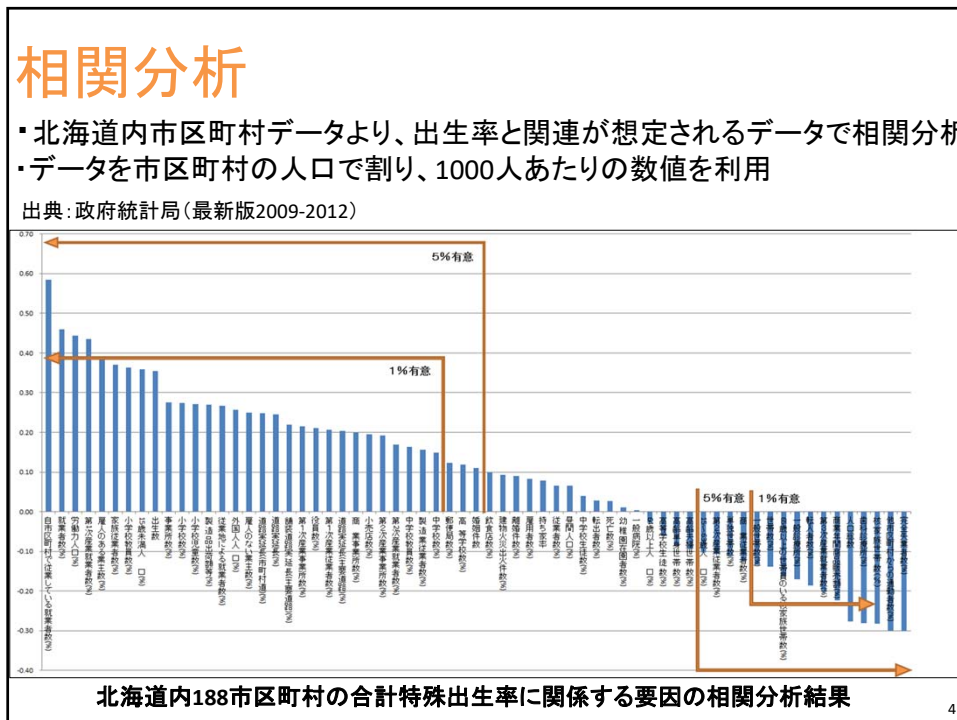
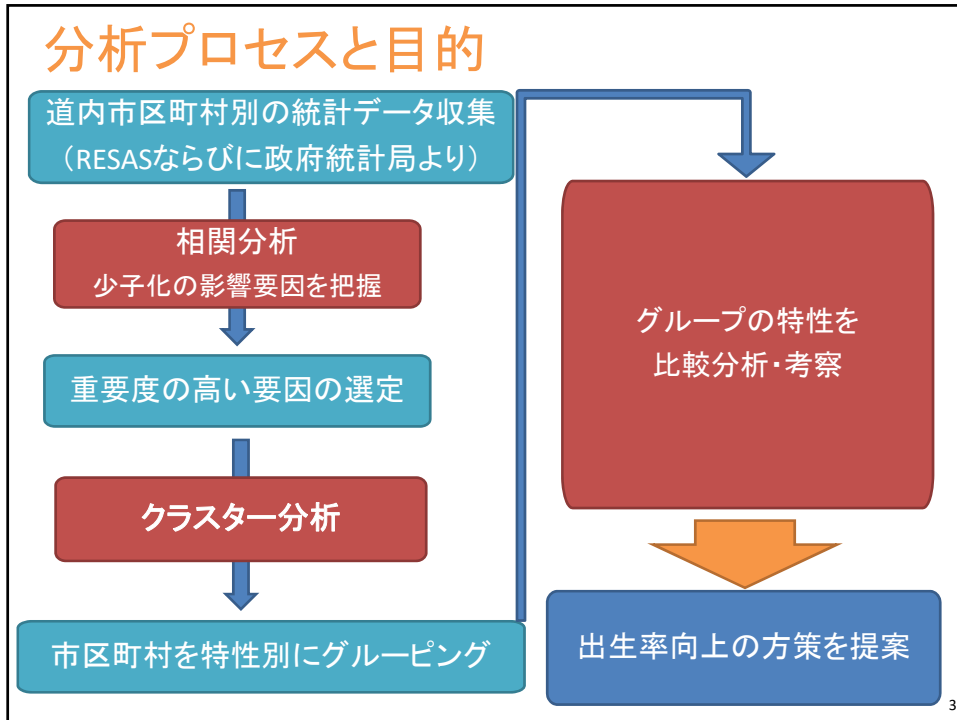
- 日本の合計特殊出生率:
1.43(2013年)
- 北海道は全国ワースト3位
- 北海道の出生率は**1.28**
(2013年)



北海道は将来、急激な人口
減少と超高齢社会に直面

**北海道は市区町村により特徴が異なり
有効な少子化対策の既存研究がない**

2



相関分析結果の考察

北海道の出生率と相関の高い正負トップ5項目

正の相関

- 自市区町村で従業している就業者数
- 就業者数
- 労働力人口
- 第1次産業就業者数
- 雇人のある業主数

負の相関

- 他市区町村への通勤者数
- 医師数
- 完全失業者数
- 他市区町村からの通勤者数
- 核家族世帯数

1. 就業に関する生活環境

→①自市区町村で従業している就業者数

2. 就業状況とその産業環境

→②完全失業者数、③第1次④第2次⑤第3次産業就業者数

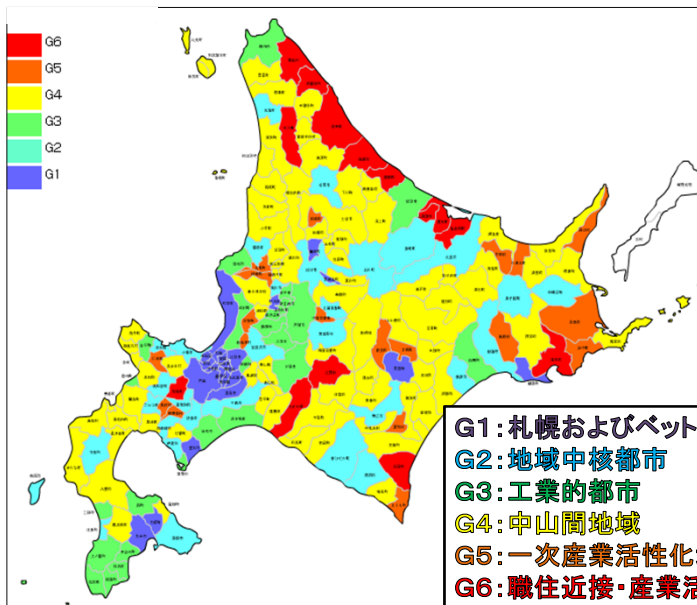
3. 家族による子育て支援環境

→⑥核家族世帯数

市区町村特性格別分類にこれらの6指標をクラスター分析に使用

5

クラスター分析グルーピング図

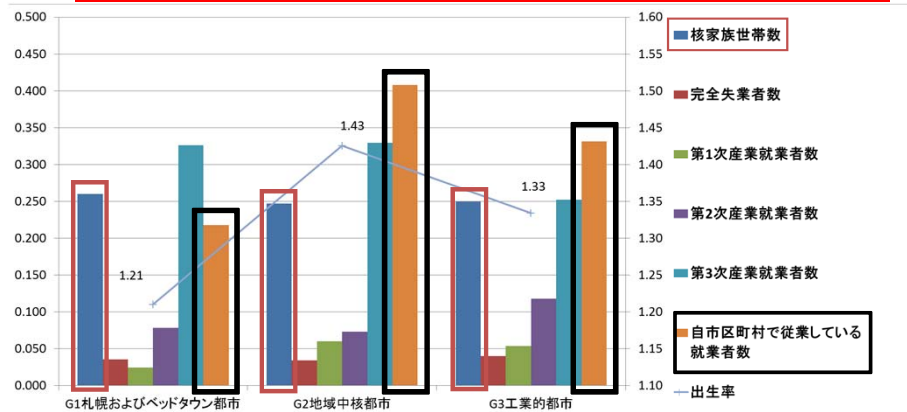


- G1: 札幌およびベットタウン都市
- G2: 地域中核都市
- G3: 工業的都市
- G4: 中山間地域
- G5: 一次産業活性化地域
- G6: 職住近接・産業活性化地域

6

クラスター分析結果・考察(G1,G2,G3)

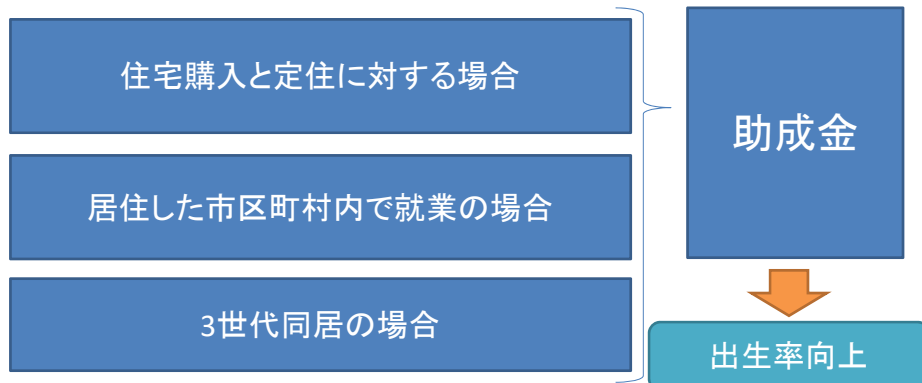
- G1:札幌およびベッドタウン都市(札幌市、江別市、北広島市、etc)
→自市区町村で従業している就業者数が最も少ない
- G2:地域中核都市(旭川市、釧路市、帯広市、etc)
→G1~G3の中では出生率が最も高い
- G3:工業的都市(室蘭市、苫小牧市、etc)
→第2次産業就業者数が高く、第3次産業就業者数が低いが出生率は低い



出生率向上のアイデア1

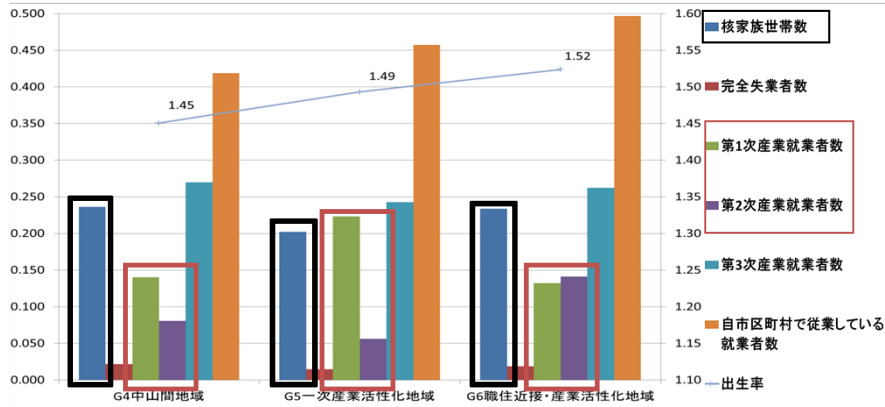
~人口規模が大きく出生率が低い都市的地域: G1,G2,G3について~

- ① 職住近接型の就業・生活構造への転換
- ② 子育てをしやすい家庭環境の創出



クラスター分析結果の考察(G4,G5,G6)

- G4: 中山間地域(網走市、日高町、陸別町、etc)
→ 平均的な北海道の市区町村グループ
- G5: 一次産業活性化地域(えりも町、別海町、鹿追町、etc)
→ 核家族世帯数の割合が低い
- G6: 職住近接・産業活性化地域(猿払村、佐呂間町、むかわ町、etc)
→ 漁業などの第1次産業が発達し、その加工(2次)産業も発達



9

出生率向上のアイデア2

～農林水産業が主産業であるG4,G5,G6について～

自市区町村内で生産された原料を活用し雇用を創出する
食ビジネス育成集中助成事業

自市区町村内で

食品等加工会社設立

生産原料を50%以上利用

食品等加工工場建設

非課税
と
助成金

出生率向上

10

まとめ

- 現在の少子化対策は、子育ての短期的経済的支援のみ
→しかし、出生率に大きく影響を及ぼしている要因は、

・就業に関する生活環境
・就業状況とその産業環境
・家族による子育て支援環境



- 職住近接
- 3世代同居
- 農林水産業の活性化
- 食品等加工産業育成



積極的推進
が急務